

# 武尊山の野鳥分布 ～2015年から2017年までのまとめ～

群馬県立尾瀬高等学校 理科部

キーワード：武尊山「水源の森」 野鳥 生息状況 スポットセンサス

はじめに

尾瀬高等学校自然環境科では校外実習や理科部の調査活動として、群馬県北部に位置する武尊山にある群馬県企業局所有「武尊山水源の森」において、生息する野鳥の生息状況を記録するための調査を毎年5月から10月まで毎月1回ずつ行っている。

今回は、2015年から2017年の3年間の調査結果をまとめて、野鳥の生息状況を明らかにするとともに、野鳥を取り巻く環境との関係性について考察する。

方 法

調査は、環境省が日本列島の多様な生態系のそれぞれについて、基礎的な環境情報の収集を長期にわたって継続して日本の自然環境の質的・量的な劣化を早期に把握するために全国に設置した1000ヶ所程度のモニタリングサイト（モニタリングサイト1000）における野鳥の調査マニュアル「モニタリングサイト1000 森林・草原の野鳥調査ガイドブック（2009年）」の調査方法に準じて、「スポットセンサス法」を用いて調査を行なった。

調査場所は「水源の森」の入り口（標高1500m）から武尊避難小屋（標高1758m）までの登山道沿いに約250m間隔に10地点を設定した（図1）。各調査地点で10分間立ち止まり、半径50m以内に出現する野鳥を目視や鳴き声など（さえずり、地鳴き、ドラミング）などにより種類を識別し、個体数を記録した。

調査地の植生は調査地点No.1から7まではブナとダケカンバの落葉広葉樹林、No.9, 10がオオシラビソの針葉樹林、No.8は針広混交林で、どの地点も林床はチシマザサを主とするササが密生している。



図1 調査地

結果と考察

2015年から2017年までの3年間の記録をまとめると、調査範囲全体として2015年は21種、2016年は32種、2017年は27種、3年間を合わせると38種の野鳥を記録できた。

この地域の最近の調査報告として、群馬県自然環境調査研究会によるものがあり、武尊避難小屋よりさらに上部までの調査範囲での結果として 46 種の野鳥が挙げられている（卯木 2015）。46 種のうち我々の調査では記録されていない種が 13 種、逆に我々の調査のみで記録されている種が 5 種あった。我々の調査で記録できなかった種の多くは、我々の調査範囲よりも標高の高い地域を生息域としている種や個体数が極端に少ない種、活動時間のピークが夜間や早朝、夕方などの種である。

はじめに、調査範囲全体を一つの鳥類群集の生息地と考えて、3年間の月ごとにそれぞれの種が 10ヶ所の調査地点のうちの何ヶ所で記録されたかを種の「常在度」（出現頻度）、3年間の月ごとの全個体数に占める各種類の個体数に割合を種の「優占度」、5月から10月までの6回の調査のうちの何回の調査で記録されたかを「年間常在度」として集計し、それぞれの種の生息状況を検討した。その結果、ウグイスとヒガラの常在度や優占度が他の種に比べて高く、この2種はこの地域内では「どこでも」「いつでも」「数多く」記録されていることがわかった。表1は3年間の月ごとの記録地点数を示す。多くの種で8月以降の記録が少なくなる傾向があるが、その理由には夏鳥や漂鳥などは繁殖地から他の地域への移動することと、多くの鳥が繁殖期を過ぎてさえならずなくことが理由に考えられる。これに対してウグイスとヒガラはさえずりだけでなく地鳴きもよく聞くことができるのが記録率が高い一因と考えられる。この2種はどちらも昆虫を主な餌としているが、ウグイスは林内のササ層を、ヒガラは高木層から亜高木層、低木層までを主な活動場所としており、互いに競合することなく同じ森林内ですみわけて生息している。夏鳥のホトトギス、カッコウ、コルリ、キビタキ、漂鳥のルリビタキ、クロジなどは5月から7月にかけては比較的常在度が高いが8月以降は低くなっていて、この地域で繁殖した後他の地域に移動していくことがわかる。

次に、調査地点ごとの記録状況について検討した。これにより、全域に広く分布する種、主に上部の針葉樹林に生息する種、主に下部に生息する種、季節により生息場所を変える種などが明らかになった。

おわりに

平成28年度モニタリングサイト1000 陸生鳥類調査報告書(2017)によると、全国的な傾向として繁殖期における出現率はキビタキ、ウグイス、ヒガラ、シジュウカラ、コゲラが上位を占めていて、近年の傾向として、キビタキが出現率1位になることが続いている。また、優占度はヒヨドリ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラが上位を占めている。特徴的な変化として、ウグイス、コルリなどやぶを利用する鳥の減少が示され、シカの採食の影響が示唆されている、との記述がある。

これに対して、武尊山ではウグイス、ヒガラ、シジュウカラが上位を占めているのは全国的な傾向と一致しているが、キビタキやヒヨドリはそれほど上位の種ではない。また全国的に減少傾向とされるウグイス、コルリが武尊山ではほぼ全域で記録されている。全国的にシカによる森林への影響が問題になっているが、武尊山ではほぼ全域に林床にササが多く生育しており、シカによる被害はまだ他の地域ほど深刻ではないといえる。